

庄内麦情報

第1号

令和6年4月12日
庄内総合支庁 農業技術普及課
TEL(0235)64-2103
FAX(0235)64-2104

適期を逃さず赤かび病防除をしましょう！

気象庁によると、4月8日現在の2週間天気予報では、気温が「かなり高い」と予想されています。気温が高い日が続くと出穂期が予想よりも早まる可能性があるため、圃場をよく観察して適期に赤かび病防除を行いましょ。

防除は①開花期（出穂期の5～7日後）と②1回目防除の7～10日後が適期です。

幼穂長と気象情報を確認して防除の準備をしましょう！

管内の大麦・小麦の出穂は「昨年並～やや遅い」と予想されます。

表1 令和6年の麦の出穂予測と赤かび病の防除適期の目安

品種	幼穂長(mm)	調査日	令和6年の出穂期(予測)	昨年の出穂期	令和6年の赤かび病防除の目安	
					1回目	2回目
大麦(シュンライ)	30	4月8日	4月18日頃	4月15日	4月23日～4月25日	1回目防除の7～10日後
小麦(ゆきちから)	6.5(平坦)	4月8日	5月3日頃	—	5月8日～5月10日	
	1.5(山間)	4月8日	5月12日頃	5月14日	5月17日～5月19日	

※大麦：三川町土口、小麦：鶴岡市本田（平坦）、羽黒町手向（山間）、普及課調べ
アメダスデータ鶴岡の日平均気温の平年値を予測に用いた。

▶大麦・小麦の赤かび病に適用のある剤

- シルバキュアフロアブル、チルト乳剤25、トップジンM水和剤、トップジンM粉剤DL など
※農薬の使用に当たっては、使用方法等をラベルで確認し、ドリフトに注意しながら適切に使用して下さい。
※耐性菌発生の防止のため、同一系統の薬剤連用は避けましょう。

圃場ごとの生育状況や今後の気象により出穂期は前後します。実際に幼穂長を測り、表2を参考にして圃場ごとの出穂予測日を確認し、開花期に防除を行いましょ。

表2 幼穂長と出穂期までの日平均気温の積算値(宮城県古川農試の推定式から計算)

出穂までの日平均気温の積算値(°C)(出穂前日数)	分類	幼穂長(mm)					
		1	5	10	20	30	40
	大麦(シュンライ)	402°C (33日)	258°C (21日)	196°C (16日)	134°C (11日)	98°C (8日)	72°C (6日)
	小麦(ゆきちから)	443°C (36日)	302°C (25日)	241°C (20日)	180°C (15日)	145°C (12日)	119°C (10日)

※出穂前日数は、4月下旬の平均気温（平年値、12.4°C）で推移した場合の日数



写真1 罹病した「ゆきちから」

※赤かび病について

赤かび病は、ムギの開花期に赤かび病菌が穂に感染することによって起こる病害です。収量や品質を低下させるだけでなく、人や家畜に対して**有害なカビ毒を生成**します。**農産物検査において、赤かび粒が0.0%を超えて混入してはいけません。**

病斑部には桃色のカビが見られ、後に黒色の小粒(子のう殻)を生じます(左写真の赤丸)。主に穂を侵し、出穂期～乳熟期にかけての多雨条件で発生が助長されます。被害子実は白っぽいクズムギになります。

開花から10日間は特に感染しやすい期間となります。適期防除を徹底し、赤かび病の発生を防ぎましょう。

小麦

減数分裂期以降の追肥について

小麦:「ゆきちから」では、強力粉として適正なタンパク質含有率(11.5~13.0%)を確保し、増収を図るために追肥を行います。

①減数分裂期

出穂8~10日前の葉耳間長±0cmの株が圃場の50%となった時期(幼穂長30~50mm)に窒素成分2kg/10aの追肥を行います。

②穂揃期

およそ80%の穂が出た日を穂揃期といい、この頃に草丈90cm以下かつ止葉の葉色44(SPAD)以下の場合、窒素成分2kg/10aの追肥を行います。

※穂揃期の追肥は、倒伏を防止しながらタンパク質含有率を高めるため、生育診断に応じて実施する。



やまがた アグリネット

新着情報をFacebookやTwitterでお知らせします。

<https://agrin.jp/>



やまがた
アグリネット



Facebook

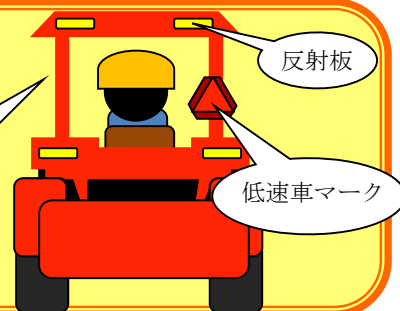


Twitter

春季農作業事故防止運動実施中！

4月10日～6月10日

ヘルメット・シードベルトも着用！



安全キャブ・
フレーム

反射板

低速車マーク